



**全国女性建築士連絡協議会に
参加して(7月15日16日東京)**
後藤 朋恵 (札幌支部)

今年の全国女性建築士連絡協議会(全健女)は、15日の全体会で北海道建築士会から『高校住教育講座～はじめての一人暮らし～』の活動報告があり、発表者(工藤さん)の報告補助として参加致しました。行政と建築士会との連携というところに皆さん興味を持たれていたのと、工藤さんのトークと具体的に生徒作品の紹介で獨創性やユニークさを目にして会場は盛り上がりました。

基調講演では中川武氏の『和の空間を考える』という、日本の家の本来の様式美、機能性を現存する建物例から紹介する内容でした。言葉自体聞きなれない用語が多く難しく感じましたが、帰ってから中川先生の本を読むと、改めて造詣の深さと幅広さに感心し、新たな世界の入口に出会えた事で貴重な機会を得ました。

16日は新海さんが司会担当のF分科会『子どもと住環境』に参加しました。まず、東京士会女性委員会のメンバーが、杉並区の保育園の改修工事に携わるまでの経緯と仕事内容の紹介があり、とても興味深い内容でした。もともとは保護者、近隣住民、園関係者、行政の意見の間隙の解決策をクロストークすることから始まり、設計事務所登録をした一般社団法人を設立し改修工事に繋がったという、パワーと熱意を感じる報告でした。次に愛媛士会女性委員会からの「こども・けんちく学校」という子供を対象にした建築や環境を楽しく学ぶ場の紹介でした。全国で女性建築士が、それぞれの立場や地域で、出来る事を真摯に取り組み、成果を上げている様子を感じたのと、北海道からも活動報告が出来た事が誇らしい2日間でした。

**「あさひかわ歴史建物探検」
～追悼 川島先生ありがとう～**

小池かおる (旭川支部)
高見 友子 (旭川支部)

旭川支部女性委員会の見学会ではじめて川島洋一氏(東海大学名誉教授・旭川の歴史的建物の保存を考える会 会長)に講師をお願いしたのは、2000年。「古建築を巡る」と題した、先生のユーモアを交えた楽しい解説での見学会は、2004年まで5年連続で開催され、旭川市内の建物だけでなく、増毛町の歴史的建物群の見学にも行きました。旭川の「うだつ」がある建物見学や、外観のみ見学予定の建物で屋内見学ができたりと、びっくりしたり、感動したり色々な楽しいエピソードがありました。

この見学会は、しばらくお休み後、タイトルを「あさひかわ歴史建物探検」として、昨年(2016年)再開しました。見学先を毎回先生と打合せをするのですが、「君達は、建築技術者、専門職なんだから、見てためになるところじゃないか。」と考えて下さいます。今回は私たち担当者から、先生と一緒に見学できない建物をリクエストしたところ「意外と知らないんじゃないか?」と先生とのつながりも深い、国や旭川市が登録・指定している有形文化財の建物3箇所の見学会となりました。(開催日:7月1日(土))

最創山光岸寺(国の登録有形文化財)では、元住職赤松氏から道路拡幅で、お寺を曳家で移築する際の苦勞話を伺い、本堂を一周

すると様々な仕掛けがあり、探検をしているようで、先生とのダブル解説はとても楽しいものでした。



最創山光岸寺前での集合写真

上川郡農作試験所事務所棟(旭川市指定有形文化財)では、建設年を特定の際、資料でも判らずにいたところ、板の裏にあった落書きが役にたったようで、落書きの薦めがありました。

上川倉庫群(国の登録有形文化財)では、上川倉庫(株)の社屋で通常非公開の木造事務所棟2階の見学が実現、井内社長のご好意で1階事務所と大きな金庫も見せていただき、ほかの倉庫群も休館日のギャラリーを開けてもらうなど、こちらでもダブル解説で贅沢な時間となりました。



上川倉庫群見学の様子

終了後、参加者との交流会では「楽しかった!来年はどこへ行く?」と話していたのに、最後の見学会となりとても残念です。川島先生には感謝しています。先生ありがとうございました。